報道関係各位

北本市
kitamoto city

令和8年11月18日
北本市役所 共生福祉課
地域共生担当 黒澤
048-594-5517
a03300@city.kitamoto.lg.jp

地元農家と事業連携 ひきこもりの方に農業を通じた社会参加の場を提供

10月から事業開始 2名が継続的に参加中

北本市では10月から地元農家と事業連携協定を締結し、新たに農福連携事業を開始しました。
農業は土づくり、種まき、収穫、袋詰めなど作業が細分化しやすく、相談者が得意な作業を見つけやすい利点があります。
様々な作業に触れ、自身の適性を知り、他者とのコミュニケーションを取る練習を重ねながら、長年ひきこもり状態にある方、孤独や孤立を抱えて他者との関わりが希薄な方などにとって社会参加の一歩となることを目指しています。



農園主から作物の収穫の指導を受けている様子

写真データ提供可

事業開始の経緯

北本市では、重層的支援体制整備事業のなかでひきこもり支援等に取り組んでいますが、相談者が安心して社会参加するための機会や場を確保することが課題でした。一方で、当市には地域資源を発掘し、つながりづくりを行う「リンクワーカー」を配置しており、リンクワーカーがこども食堂などを支援する合同会社松島農園の松島代表の思いをキャッチし、マッチングに至ったものです。令和7年度中に試験的に受入を実施しながら事業を形成し、令和8年10月に合同会社松島農園と事業連携協定を締結し、本格的な受入を開始しました。

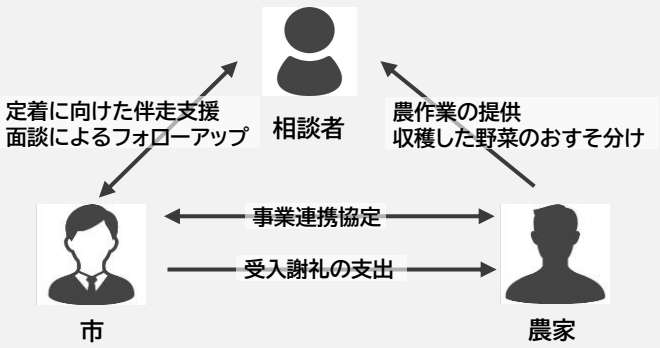
事業の特色

① **ひきこもりや制度の狭間にある方のための新たな支援策**
多くの農福連携事業の事例が障がい福祉の領域で取り組まれており、障がい者手帳の取得や特定の作業所への通所など前提条件があることに対し、北本市の農福連携事業では前提条件をつくらず、事業利用の必要性がある18歳以上の方であれば広く受け入れています

② **農作業への従事により生活リズム改善**
昼夜逆転の生活の方にとって、日中の活動を提供し、日光を浴びながら適度な汗をかくことで生活リズムの改善が期待できます

③ **孤独孤立の解消や若者支援へのニーズ**
他者との関わりが希薄であったり就職に結びつかず自宅が居場所の若者に対し、農作業を通じて社会や他者とつながることや働くことのイメージづくりを行い自立性を高めます

事業のスキーム



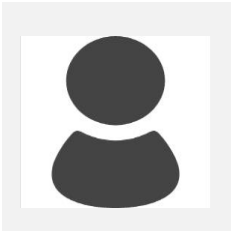
相談者それぞれの自立を目指して

週1回農福連携事業への参加に加えて市役所での面談により相談者の自立に向け支援を実施しています。

本格的な就職活動の準備にステップアップを図るタイミングを見極めたり、ボランティアなど他の地域資源も活用するなど、相談者それぞれの自立のかたちを尊重しながら伴走的な支援を行っています。

参加している方より

2週間に1回畑作業に参加しています。仕事をすることに不安を感じ、何から始めればいいか分からないことを率直に相談したことがきっかけでした。畑では草取りや収穫など初めてやることばかりで新鮮です。家にいると昼夜逆転の生活から抜け出せずにいましたが、この作業をきっかけに変えようと頑張っています。収穫した栗をおすそ分けしてもらったときは家族で栗ご飯にして食べました。家族にもこの活動を応援してもらえるようになってきました。



市内在住の利用者

合同会社松島農園より



合同会社松島農園
代表　松島修一さん

北本市内で農業を営んでいる法人で、収穫した野菜のほとんどをこども食堂やフードパントリーに提供しています。以前から自分の畑仕事を福祉の支援を必要としている方のフィールドにしたいという思いがありました。就職活動に困難を抱えている方や生きづらさを抱えている方に、農業に関わってもらうことで、前向きな気持ちを持ってもらったり、ご自身が持っている潜在的な力や強みに気づいてもらえたらと願っています。

担当者コメント（北本市農福連携事業のこれから）



農業の強みは、土づくり、種まき、雑草取り、収穫と作業工程がたくさんあることです。相談者それぞれにとっての強みや特性が異なるなか、「この仕事やこの作業ができなかった」と挫折を経験した方も少なくありません。農業のさまざまな作業に触れることで、個々に合った作業と出会い、自身の得意不得意を知る機会につながります。

松島農園と連携を皮切りに、ほかにもご協力いただける農家さんともつながりながら、相談者の方にとって、安心して社会参加の練習やコミュニケーションの訓練ができる場を提供できるよう広げていきたいと考えています。

▲詳細は
市ホームページから